

乳がん高度検診・治療センター NEW-す NO. 56

2019.1



HER2（ハーツ）陽性乳がんに対する 最新の術前・術後薬物療法



乳がんはそのタイプによって術後の薬物療法が異なります。ことに進歩が大きいのはHER2（ハーツ）陽性の乳がんです。このタイプの乳がんはHER2タンパクという餌を取り込んでがんが増殖するので、治療にはこの物質を標的とした抗HER2薬という分子標的薬*が治療の中心となります。抗HER2薬には何種類かありますが、術前あるいは術後の乳がん初期治療の段階ではハーセプチン（一般名：トラスツズマブ）のみが使用可能でした。昨年（2018年）9月より、術前・術後治療にも使用可能な薬剤が増え、より強力な治療が可能となりましたので解説します。

*分子標的薬：がんの持つある特定の物質を標的にした治療で、抗がん剤に比べて正常組織への影響が少ない。

抗HER2薬の種類

抗HER2薬としては下記のものがあります。このうち中心となる薬剤はハーセプチンでHER2陽性乳がんの術前・術後治療においてほとんどの場合に使用されます。ハーセプチン以外の他の薬剤は進行・再発乳がんにかき使用できなかったのですが、パージェタ（一般名：ペルツズマブ）については、今ではHER2陽性のハイリスク群に限ってハーセプチンとの併用療法が認められています。

術前・術後のハーセプチン + パージェタ併用療法

HER2陽性乳がんでは術前・術後の治療として、ハーセプチン+抗がん剤（ドセタキセルなど）にパージェタを併用する効果が認められています。例えばHER2陽性乳がんの術前療法としてハーセプチン+パージェタ+ドセタキセルを用いると半数近くでがん細胞が死滅することが知られています。ただ、すべてのHER2陽性乳がんが対象というわけではなくハイリスクの場合に限られます。この「ハイリスク」の基準は明確ではないのですが、一般にはリンパ節転移があるとか腫瘍径が大きい、などです。もちろん、パージェタにも下痢、皮疹などの副作用があることや、医療費が高額になるなど不利益の側面もありますので、最終的には前号でも述べましたシェアード・ディシジョン・メイキング（患者さんと医療者とが協働して共通理解のもとに治療方針を決定すること）により、治療法が選択されます。

抗HER2薬の種類と適応（使用の対象）

薬剤名	使用対象	
	手術前・後	進行・再発例
ハーセプチン	○	○
パージェタ	○**	○
カドサイラ	×	○
タイケルブ	×	○

** ハイリスク群のみハーセプチンに併用が可

市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865

乳腺外科 稲治 英生

